安全データシート

プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート

改訂日：2024-05-09　版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート
CB番号	: CB8362106
CAS	: 54839-24-6
同義語	: プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: ペンキ、樹脂、インキの溶剤
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用 GHS改訂4版を使用

物理化学的危険性

引火性液体　区分3

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性　区分2B

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性)　分類実施中

水生環境有害性 (長期間)　分類実施中

オゾン層への有害性　分類実施中

GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS07

注意喚起語

警告

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

眼刺激

注意書き

安全対策

熱､火花､裸火､高温のもののような着火源から遠ざけること｡-禁煙｡

容器を密閉しておくこと｡

容器を接地すること､ｱｰｽをとること｡

防爆型の電気機器､換気装置､照明機器を使用すること｡

火花を発生させない工具を使用すること｡

静電気放電に対する予防措置を講ずること｡

取扱後は手などをよく洗うこと｡

保護手袋､保護眼鏡､保護面を着用すること｡

応急措置

皮膚(又は髪)に付着した場合:汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと｡皮膚を流水､シャワーで洗うこと｡

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと｡次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと｡その後も洗浄を続けること｡

眼の刺激が続く場合:医師の診断､手当てを受けること｡

火災の場合には､火元への燃焼源を断ち､適切な消火剤を使用して消火すること｡　火災の場合:消火するために…を使用すること｡

保管

換気の良い場所で保管すること｡涼しいところに置くこと｡

廃棄

内容物､容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること｡

他の危険有害性

---

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート
別名	: 1-エトキシ-2-プロピルアセタート､酢酸1-メチル-2-エトキシエチル､2-プロピレングリコール-1-エチルエーテルアセテート､1-Ethoxy-2-propyl acetate､Acetic acid 1-methyl-2-ethoxyethyl ester､2-Propylene glycol 1-ethyl ether acetate
濃度又は濃度範囲	: 100%
分子式 (分子量)	: C7H14O3(146.186)
CAS番号	: 54839-24-6
官報公示整理番号(化審法)	: (2)-3159
官報公示整理番号(安衛法)	: (2)-3159
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	: 不純物-2-Ethoxy-1-acetoxypropanol (< 10%)

---

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

新鮮な空気、安静。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。　皮膚(又は髪)に付着した場合:汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。　眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入 :データなし。

皮膚 :データなし。

眼 :発赤、眼を軽度に刺激する。

経口摂取 :データなし。

応急措置をする者の保護

データなし。

医師に対する特別な注意事項

データなし。

---

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

棒状水

特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

燃焼すると、酢酸フュームを生成する。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

水を噴霧して容器類を冷却する。

消火するために粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水を使用すること。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどの密閉式の容器に出来る限り回収する。　多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

換気。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱い注意事項

熱､火花､裸火､高温のもののような着火源から遠ざけること｡-禁煙｡

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること､ｱｰｽをとること。

防爆型の電気機器､換気装置､照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

取扱後は手などをよく洗うこと。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

火気厳禁

引火性である。

53℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。

53℃以上では、密閉系および換気。

換気、局所排気、または呼吸用保護具。

作業中は飲食、喫煙をしない。

20℃で気化したとき、空気中で有害濃度に達する速度は不明である。

接触回避

データなし。

衛生対策

取扱い後は手などをよく洗うこと。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

火気厳禁

耐火設備。

安全な容器包装材料

データなし。

---

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

日本産衛学会(2012年度版)

未設定

許容濃度

ACGIH(2012年版)

未設定

設備対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

容器を接地すること、ｱｰｽをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

耐火設備。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

眼の保護具

保護眼鏡、保護面を着用すること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護手袋、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

---

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体(ICSC(J) (2004))
色	無色(ICSC(J) (2004))
臭い	特徴的な臭気(ICSC(J) (2004))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	データなし。

-89℃(ICSC (2004))

160℃(ICSC (2004))

53℃(CC)(ICSC (2004))

0.24(ICSC (2004))

データなし。

1.0-9.8 vol%(ICSC (2004))

0.227kPa(20℃)(ICSC(J) (2004))

5.05(GESTIS (Access on June. 2012))

0.98(ICSC (2004))

水:9.5 g/100 mL(20℃)(ICSC (2004))

0.76(ICSC (2004))

325℃(ICSC (2004))

データなし。

1.28-1.41mm2/s(ICSC (2004))

融点・凝固点

-89℃(ICSC (2004))

沸点、初留点及び沸騰範囲

160℃(ICSC (2004))

引火点

53℃(CC)(ICSC (2004))

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

0.24(ICSC (2004))

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

1.0-9.8 vol%(ICSC (2004))

蒸気圧

0.227kPa(20℃)(ICSC(J) (2004))

蒸気密度

5.05(GESTIS (Access on June. 2012))

比重(相対密度)

0.98(ICSC (2004))

溶解度

水:9.5 g/100 mL(20℃)(ICSC (2004))

n-オクタノール/水分配係数

0.76(ICSC (2004))

自然発火温度

325℃(ICSC (2004))

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

1.28-1.41mm2/s(ICSC (2004))

---

10. 安定性及び反応性

反応性

燃焼すると、酢酸フュームを生成する。

化学的安定性

情報なし。

危険有害反応可能性

53℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。

避けるべき条件

情報なし。

混触危険物質

情報なし。

危険有害な分解生成物

情報なし。

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットに5 mL/kg bwを投与して死亡はみられず、LD50値は >5 mL/kg bw(4700 mg/kg bw)(ECETOC TR95 vol.Ⅱ(2005))との報告に基づき、区分外とした。GHS分類:区分外

経皮

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:ガス

GHSの定義における液体である。GHS分類:分類対象外

吸入:蒸気

ラットのLC50値は > 6.99 mg/L/4h(1150 ppm)(ECETOC TR95 vol.Ⅱ(2005))と報告されているが、区分を特定できないので分類できない。なお、ばく露濃度は飽和蒸気圧濃度の90%(12.27 mg/L)より低いので、ミストが殆んど混在しない蒸気として気体の基準値を適用した。GHS分類:分類できない

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚腐食性及び刺激性

ウサギを用いた試験(OECD TG404, GLP)で低刺激性(low potential of irritancy)との報告(ECETOC TR95 vol.Ⅱ(2005))、かつ、この結果については3匹中2匹が軽度の紅斑、1匹が軽微な浮腫を示したが、本物質を刺激物質に分類する証拠にはならないとの記述(IUCLID (2000))により、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分3相当)とした。GHS分類:区分外

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギを用いた試験(OECD TG405, GLP)において、最初に結膜の充血があり、軽度の刺激性を示したが2日目までに回復、角膜と虹彩には影響がなかった(ECETOC TR95 vol.Ⅱ(2005))。また、この試験の別の報告では、部位別の指標の平均スコアはEUのリスク警句R36に分類するには十分高くないと記載されているが、3匹全例に陽性反応がみられ、結果的に軽度の刺激性(slightly irritating)と評価されている(IUCLID (2000))ことから区分2Bとした。GHS分類:区分2B

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚感作性

モルモットのマキシマイゼーション試験(GLP準拠)において、遅延型接触過敏症の証拠は認められず(ECETOC TR95 vol.Ⅱ(2005))、感作性なし(not sensitizing)と報告されている(IUCLID (2000))が、陽性率も不明なため「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

生殖細胞変異原性

in vivo試験データが無いので分類できない。なお、in vitro試験では、エームス試験およびチャイニーズハムスターCHO細胞を用いた染色体異常試験でいずれも陰性(ECETOC TR95 vol.Ⅱ(2005))が報告されている。GHS分類:分類できない

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

---

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

分類実施中

水生環境有害性(長期間)

分類実施中

オゾン層への有害性

分類実施中

---

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

3272

国連品名

エステル類(他に品名が明示されているものを除く。)

国連危険有害性クラス

3

副次危険

-

容器等級

III

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

127

---

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・引火性の物

消防法

第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体

船舶安全法

引火性液体類

航空法

引火性液体

化審法

新規公示化学物質（2011年3月31日以前届出）

---

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA:国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法(化審法)https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

免責事項：
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。